

25時

の



日月

26歳

言葉遊び

女

心に元気がない

ポツカリ穴があく

埋まることない隙間

いろんなもの入れてはみるけど

どれもダメだ

寂しい

誰かといたい

一人が好きなのに

おかしいな

愛されたいんだ

誰にでも

分かってるんだ

できない理由

前向きなのが正解で

凹んでくのは失格で

明るい笑顔

優しい言葉

100パーセントの人間目指せ

そうしたら

あの子みたいになれるかな

ねじれて曲がって

落ちてくあたしは

愛されなくて当然で

嫉妬、ひがみ

あー

真っ黒だ

自分らしさって何ですか？

あたしは残念ながらこんなんです

理想ばかり追いかけて

現実見て落ち込んで

もがいて這って

でも落ちて

誰かが抱き上げてくれるの待ってる

それでも毎日が続いていって

明日に期待してる

バカで愚かなあたしを

誰か ねえ 愛して

人間・・・

欠けてて

歪んでて

羨んで

憎んで

虚しくて

直ることのない

欠陥品みたいだ

自分は自分なんだ

以上も以下もない

それでも

誰かと比較して

完成したくて

必死にモガいて

なんてバカらしいんだろう

ありのままを愛せない

素晴らしさに気付かない

本当にどうしようもなく愚かで

でも、どうしようもなく愛おしい

だから

私は人間でありたい

人間を愛し、愛されたい

ねえ

今、私を見つめて

少し微笑んだ

その表情について

一字一句残らず

ちゃんと説明して

そうじゃなきゃ、あたし、
一歩も動けなくなったじゃない

あなたの視線に・・
麻酔にかけられたみたいに

責任とって
ちゃんと解いてよ

だから今すぐ

抱きしめてってば

虚しさの海に潜るのが好きだった

入ると見える景色は

青いフィルターがかかった色褪せた世界

すごく私らしい、心地よい感触

上を見ると、明るかった

でも

見えていた景色は

歪んでぐちゃぐちゃになった

しばらく漂って

私は浄化される

それから

光を目指して泳いで

いつもの私に戻る

何事もなかったかのように

努めて明るく

潜るのは私だけの秘密

上の光を探して泳ぐのは得意だった

でも

今日は様子が違う

いつもより深く潜ってしまったみたい

私を何かが抑え込んで

もがいても、もがいても

上がれないの

下の世界は真っ暗だ

光が、見えない、

もう、一人では上がれないみたい、

誰かの手が、欲しい

誰かの手、

あなたの手、

今

私は最後の力で手を伸ばすから

あなたは私の手を掴んで

引き寄せて

それから光の世界に

連れて行って

飾る

飾る

良く見られるために

飾る

飾る

オーラを振りまきながら

飾る

飾る

イイ女を目指して

飾る

飾る

ほら？こんなにキレイでしょ？

飾る

飾る

飾る

飾る

...

きつと

立ち止まって自分を見たら

オモテにいろんなモノが

くっついただけで

無い中身が透けてみえる

その瞬間

全て崩れていきそうで...

そうなることは

分かっているから

だから

今日も

飾る

飾る

飾る

飾る

...

『幸せ』は満足できない

どこまでいったら

満たされるのだろう

有り余るくらいのお金を手にしたら？

誰からも羨まれるような容姿だったら？

最高のパートナーと結婚したら？

子供が産まれたら？

全ての物を手に入れても

きっとまだ足りなくて

どこかに虚しさが付き纏うんだろう

この隙間を

埋めてくれるのは

何？

誰？

いつか

答えが出る日がくるのだろうか

私はずっと

【いつか】を待っている

与えられた

偽りの『幸せ』を抱きしめながら

私ではなく
あの子が選ばれた

『女』を測られ
比べられ

そして
否定された

私は冷静を装った
物分りの良い大人を演じた
必死に隠した

でも本当は泣いていた

心にもない言葉で
『私』に触れないで

いらぬなら
言葉なんて並べないで
さっさと捨てて

大丈夫

私はあの時壊れたのだから

あなたの才能に激しく嫉妬する

どうして

あたしが思ってたことを
そんなに上手に、巧みに
賞賛される程に
やってのけてしまうの？

それでいて

当たり前みたいな涼しい顔で
あたしの横をすり抜けていく

本当に嫌な人

なのに

心の底から
あなたを求める自分がいる

悔しいから
あなたもあたしがいないと
生きていけないようにしてあげる

あたしはあなたの血になるの

あなたを眠らせた後 ベッドの上で針とチューブを繋げる

ほら、

その才能だって
あたしから出来てるの

自分が全てだなんて笑わさないで
思い上らないでよね

【愛】は愚かだ

【愛】は醜い

一度そうなつてしまえば

自分ではない強いものに支配され

何も見えなくなり

どんどんと渦の底に

落ちていくようだ

そんな自分が

どうしようもなく嫌いだ

でも

そんな馬鹿で滑稽なところさえ

たまらなく愛しく感じるのが

きっと本物の愛で

運命の相手だ

そして、そんな盲目的な姿は

周りから見れば、また

理解できないくらい、滑稽なのだろう

愛というのは

【愛になる】ことかもしれない

あたしの本当の顔はどこ？

毎日いろんな顔を
巧く使い分けていたら

いつの間にか

いろんな顔が混ざって
別人になった
ぐちゃぐちゃになった

人に見せるための顔が
本当のあたしを飲み込んで
潰していく

早く抜け出さないと
顔を取り戻さないと

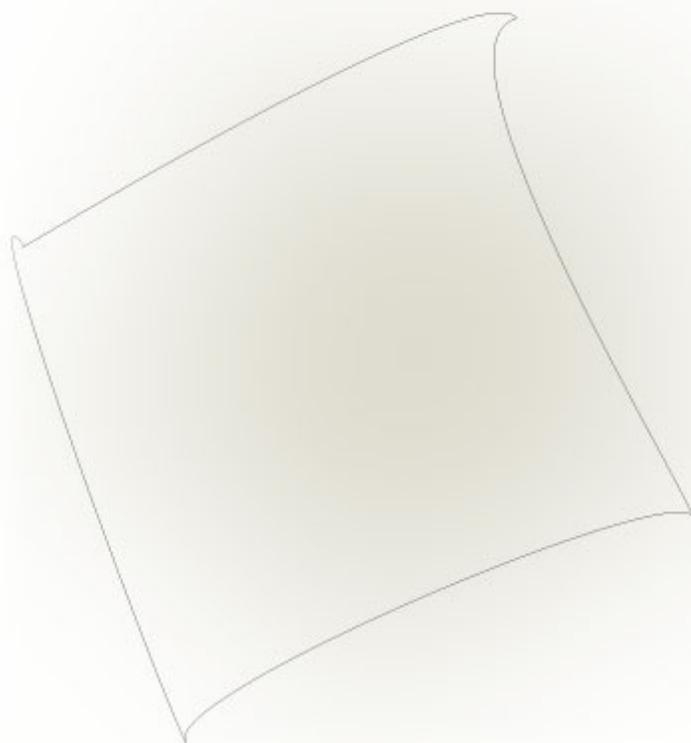
鏡を見たら
もう何も映らなかった

あたしはいなくなった

いつも箱の中に籠っていた。
光の届かない場所。
誰も入ってこない場所。
そこにいるのが、幸せだと思っていた。

今日、突然あなたがやってきて
徐に私を呼んで、外に連れ出した
『空が綺麗だから。ほら、雲の形と月。ね?』

私はその瞬間、すごく泣きそうになった。
悲しいからじゃなくて、
本当に綺麗だったから。
そして、あなたを好きになってしまったから。



本当は知っていた。
この世界の綺麗さも。本当の幸せのことも。
そして、あなたのことも。
でも、怖くて出ないようにしてた。
気付かないようにしてた。
そうしてた方が、何も傷つかないから。

今まで避けてきた光は
刺すものではなく
全てを輝かせ、包み込むものだった。

光は、あなただ。